

## “0次”で取り組む国語の力がアップする7つの習慣 ～読む・書く・聞く・話すの基礎を育てるしかけづくり～

確かな学力と自立する力の育成ー確かな学力の育成ー

◆ 所属・提案者（◎代表者）

加須市立樋遣川小学校

◎伊藤 淳子

**ねらい**

＜実践に至った背景＞本校の学力の課題は、国語の「読む力」を付けることである。そこで、全校で国語の言語活動を充実させる研究に取り組み、生きて働く国語の力をつけようと試みた。活発で楽しい言語活動をするには、国語の基礎的な力が身に付いている必要がある。そこで、授業に入る前の段階で（＝0次）、基礎的な力を付けるための「習慣」をつくることで、児童が無意識に、自然に国語の力が付けられるように取り組んでみることにした。

＜ねらい＞児童が定期的に、自然に取り組めるように、なおかつ教師の負担にならず、無理なく続けられる簡単な「しかけ」を作り、日々の生活の中で（＝0次）無意識のうちに、国語の学力の基礎を培うことをねらいとしている。

**実践内容**

◎ 全校で取り組む「7つの習慣」

① 言語活動に生きる“0次音読”…美しい日本語を目、口、耳、脳で体得する

- ・国語部での音読カード作成資料1・2・3…「学習指導要領解説書」を基に、内容を再考し、低、中、高学年で統一した音読カードをB5版で作成。
- ・家庭へのお願い…毎日、家庭音読に取り組むように、年度当初に家庭へ協力をお願いをする。校長講話で音読の大切さを全校児童に啓発。保護者には、国語通信で啓発。
- ・授業での、音読の活用…共読み、追いかけ読み、段落読み、分担当読み、役割読み、拡大語読み、すらすら読み 等
- 模範を示す。見届けて指導する（称賛する）。段落、段落等の文章における役割の理解。課題に対する答えの確認。アクションをつけた物語の内容の読解 等。
- ・保護者へ公開の群読の森集会…年に二回実施。学年ごとに発表。日々の音読の成果を交流。司会は図書委員会。



＜役割読み（説明文）＞ ＜群読の森集会（上下）＞

② 「書く」を強める“0次”…自分の伸びを喜び、書くことに慣れる

視写テスト…漢字スキルについている漢字テストの裏面にある視写コーナーを活用。5分で視写を目標。前回の自分と比較し伸びを確認できるところが良い。集中する5分を学期15回程度実施できる。

めやす…学年×60文字を10分間以内で



（視写テスト）

③ 言葉の感性を磨く“0次”…感じる心を育て、自分の良さに気づく

- ・俳句の掲示…作文に苦手意識がある児童も、取り組もうという意欲が持てる。一人一人の良さが交流できる。教師がすぐに褒めることができる。
- ・俳句の指導…学年の初めに実施（学年によっては俳句の単元の時に）。
- 国語通信資料4の発行。俳句づくりのガイダンス。基本事項、季語の紹介。
- 資料4・5・6「自分らしく、自分の感じたことを大切に」作るように伝える。
- ・俳句コンクールに挑戦…出品し、評価された作品を国語通信で発表。資料6

（児童の俳句の作品）



④ “0次読書”のすすめ…読むことの楽しさを広げる

- ・音読カード（板目表紙に貼って使う）の隣りに見開きに貼る。B5版資料7・8…自分の読書の記録ができ、がんばりが目に見える。
- ・メルヘンタイム…毎週月曜日の業前は、読書をする。年間8回の読書ボランティア「たんぽぽ」さんによる読み聞かせ
- ・年3回の読書週間資料9…「お話文庫ラビット」実施。（素話、ブックトーク、読み聞かせ）
- ・図書委員会によるオススメ本の紹介…資料10…図書委員作成のポップを図書室に掲示。（図書委員児童作成のポップ）
- 放送での紹介。
- ・読書賞の表彰…各学年3位までの読書量の児童を学期ごとに表彰。
- ・掲示コーナーの活用…各学級の代表児童の感想カードを掲示。
- ・国語通信の発行…「先生方のオススメ本の紹介」を掲載し、各家庭へ配布する。資料5（図書委員会がインタビュー）児童の力で読書の楽しさを広げる。



### ⑤ “0次作文”（短作文）のすすめ…日々の出来事に「感じる自分」になれる

目的をもって短作文に取り組む。（例：全校朝会の校長先生のお話を聞き取り感想を書く。行事の後、思ったことを書く。読書の感想を書く。学習のまとめ、感想を書く。等）（100マス作文で、時間を計って決められた時間で書く経験をすると、自分の伸びが見られ意欲が沸く。題材設定の力がついてくる。）教師の朱書きを入れることが大切。

### ⑥ 今日のきらりを発表…学級経営に生きる言語活動

その日の日直が、学級の良かった所や、がんばりを発表する。または、日直さんが「言葉の花束」を、明日の日直さんから、もらえる仕組みも良い。

毎日、輪番で実施することで全員が学級や友達の「良さ」を聞き、友達つけられるようになり、話すことができるようになる。

＜帰りの会 日直さんへ言葉の花束を＞



### ⑦ あたかな心が育つ“0次”…言葉の持つ力に気づき、使えるようになる

ゲストティチャー、読みきかせのボランティアさんなど、いつもの学習と違った人から学んだときは、感謝の気持ちを伝える言語活動の絶好のチャンス。その日の日直が心で感じ取ったことを一言添えて、お礼の言葉を言うことができるようにする。あるいは、全員が一年かけて一回ずつ経験できるように輪番に回す方法もある。

＜社会科見学感想発表＞



### 実践時期・期間

4月から通年

＜社会科見学で質問＞

### 実践の成果や課題



- ・ 学力テストの結果が向上。（最高、国語9ポイント向上）
- ・ 書くことが苦手で、個別指導が必要だった児童が、自分の力で新聞や作文が書けるようになった。
- ・ 実の場で生きる言語力が付いてきた。

（例：「1学期の自分の成長」を全員の児童が話すことができた。社会科見学、林間学校等、お礼の言葉や感想などが、予め原稿を用意しなくても話せるようになった。社会科見学、車中での見学場所クイズ等見てきたことをクイズにして、児童の力で互いに学べるようになった。等）

- ・ 友達や学級全体の良さやがんばりを見つかることができるようになったことで、自分たちが何を目標としてがんばっているのか、どんなことをがんばっているのか自分たちの理想は何か分かるようになった。言葉で表してあげると、よく分からないものははっきりとしたものにするということが、経験できた。言葉は、相手を励まし、勇気を与えるなど、心を動かす力があることが経験できた。



＜ひやりっ子アート作品展で感想を語り合う児童＞

### セールスポイント

- ・ 教える側の経験年数や、教科の好き嫌いを問わず実践できる。
- ・ 他人と比べるのではなく、自分の良さや自分の伸びを実感できることで、児童の意欲が向上する。
- ・ 少ない労力、少ない時間で、淡々と繰り返し実施することができるので、力を付けられる。
- ・ 実の場を用意することで、成果や喜びが得られやすい。実の場で生きて働く言語力が身に付く。
- ・ 「言葉の力」が自分や相手、集団を励ます力があることを実感できる。

### 他校で導入するポイント

年度当初に、国語部会で実施することを吟味し、全体に図ると、全校職員の協力が得られる。



＜鼓笛隊式 指揮者のメッセージ＞

- ・ 通年続けることができるように、取り組みやすく、準備しやすい簡単な仕組みにすると良い。
- ・ 児童の「話したい」「聞きたい」の気持ちを大切にす。
- ・ ユニバーサルデザインの視点から、話す友達の姿から学ぶ、何度でも挑戦する意欲を受け止める。
- ・ 価値ある「話す力」を評価し、子どもの意欲を育てる。

＜図書室おすすめ本コーナー＞



・ 各教科における言語活動を、タイアップさせると改めて時間を取る必要がなくて良いし、どの教科においても、言語活動が活発になる。

・ 行事、集会活動での司会や、初めの言葉、終わりの言葉等を自分たちで言葉を整える等、実の場で経験を重ねていくと、言語力を伸ばすことにもなる。

### こうすればより高い効果が得られる方策など

### 外部有識者からのコメント

国語力の向上のための取組。様々な取組を一つにまとめ、継続していこうというところが工夫されている。国語科に特化して、様々な習慣としているところが面白い。習慣化することで、繰り返し学んでいる、楽しんで学んでいる、知らない間に学んでいるという、構えずに学力向上に取り組むことができる。自分自身が成長を自覚化できるような手立てがあると更によい。